



厚別通



令和8年度 学力調査特集号 令和8年8月27日 011-892-7555

令和8年度全国学力・学習状況調査 本校の結果概要について

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動に深い御理解と温かい御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、今年度4月に6年生を対象として実施いたしました「令和8年度全国学力・学習状況調査」につきまして、その結果の概要および今後の取組について御報告申し上げます。本調査は、児童の学力や学習状況を多角的に把握することにより、これまでの教育活動の成果と課題を客観的に検証し、指導方法の工夫や授業改善に活かすことを目的として行われたものです。

この度、全国的な傾向と比較した本校の結果を取りまとめましたので、成果が見られた点と合わせ、今後重点的に取り組むべき課題、および具体的な改善の方向性についてお知らせいたします。

調査対象は6年生ですが、今回の結果から得られた課題は単一学年のみのものではなく、学校全体で培ってきた学習習慣や指導体制の表れであると捉えております。そのため、低学年から高学年まで全校を挙げて組織的な指導改善を図り、児童一人一人の「分かる・できる」喜びを実感できる授業づくりに努めてまいります。

また、学力や学習習慣の定着には、学校での指導に加え、御家庭での規則正しい生活習慣や自学自習の取り組みも大変重要な役割を果たします。今後とも、お子さんの健やかな成長と確かな学力の定着に向け、保護者の皆様の御支援と御協力を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

全体的な本校の傾向としては、令和8年度は、国語は全国平均とほぼ同程度、算数は下回る結果となっています。

本校の令和8年度全国学力・学習状況調査の結果概要については、特に保護者の皆様と共有したい部分を選んでお伝えしています。本調査結果は、今後の本校児童が学力を身に付けるための大切な資料として活用していきたいと考えています。御家庭での学習にも是非お役立てください。

国語

領域と本校の概要

- 言葉の特徴や使い方に
関する事項
- 読むこと
 - ・2項目とも全国平均に比
べ、上回っている。
- 話すこと・聞くこと
- 書くこと
 - ・2項目とも全国平均に比
べ、やや下回っている。
- 情報の扱い方に関する
事項
 - ・全国平均に比べ、下回っ
ている。

今回の調査における課題

- 「記述式」の問題の平均正答
率
 - ・全国平均に比べ、上回って
いる。無解答率 9.3%。
- 問題に対する無解答率
 - ・全国平均に比べ、無解答率
平均 1.9%。
- 引用して、自分の考えが伝わ
るように書き表し方を工夫す
ることができるかどうかをみ
る問題
 - ・全国平均に比べ、正答率が
低い。
- 情報と情報との関係付けの仕
方、図などによる語句と語句
との関係の表し方を理解し使
うことができるかどうかをみ
る問題
 - ・全国平均に比べ、正答率が
低い。

改善の方向

自分の言葉で「伝える・整理 する」力の育成

- 文章の重要部分を引用し
ながら、自分の考えについ
て根拠をもって書く練習
を増やします。
- 図やワークシートを活用
し、言葉や情報同士のつな
がりを見視的に整理する
指導を行います。
- ペアワークなどを通し、
「なぜそう思うか」を友達
と話し合って考えを深め
る活動を取り入れます。

算数

領域と本校の概要

- データの活用
 - ・全国平均に比べ、ほぼ同
程度であるがやや下回
っている。
- 測定
 - ・全国平均に比べ、やや下
回っている。
- 数と計算
- 図形
- 変化と関係
 - ・全国平均に比べ、下回っ
ている。

今回の調査における課題

- 図形「体積の意味について理解
しているかどうかをみる」問題
 - ・全国平均に比べ、正答率が
低い。
- 変化と関係「百分率で表された
割合と比較量から、基準量を求
めることができるかどうかを
みる」「基準量、比較量、割合
の関係が正しく表されている
図を選ぶことができるかどう
かをみる」問題
 - ・全国平均に比べ、正答率が
低い。
- 数と計算「整数と小数減法の計
算をすることができるかどう
かをみる」問題
 - ・全国平均に比べ、正答率が
低い。

改善の方向

「図や実感で深く理解する」 指導の強化

- 具体物や図形を用いて、体
積などの意味を体感的に理
解できるようにします。
- 割合の問題では、式を立て
る前に「図(関係図・数線図)」
を描く習慣付けをしていき
ます。
- 自学の取組での復習を促し
ていく。小数・整数の計算
の確実性を高めます。

児童質問紙より

《全国平均より肯定的な回答が上回っている項目》

（「できている」「どちらかといえば当てはまる」の合計割合）

質 問 項 目	本 校	全 国
相互承認（自己承認、他者への承認、他者からの承認）の感度に係る項目		
将来の夢や目標をもっている。	89.3%	81.8%
人が困っているときは、進んで助けている。	96.5%	92.7%
人の役に立つ人間になりたい。	98.2%	95.8%
家庭環境・地域貢献・家庭学習に係る項目		
地域や社会をよくするために何かしてみたい。	89.3%	80.1%
ICT に関する項目		
ICT 機器で文章を作成することができる。	87.5%	79.1%
インターネットを使って情報を収集することができる。	96.4%	84.9%
ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる。	76.8%	67.5%
ICT 機器を使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる。	92.9%	74.6%
主体的・対話的で深い学びに係る項目		
学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。	89.3%	78.4%
学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。	87.5%	81.5%
学級活動の話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。	83.9%	77.3%

【上回っている項目について…結果から・改善の方向】

1. 高い思いやりと「人の役に立ちたい」気持ち

「困っている人を助ける(96.5%)」「人の役に立ちたい(98.2%)」「地域にいいことをしたい(89.3%)」と、非常に高い結果が出ました。日頃の異年齢交流や地域と関わる活動を通して、思いやりの心や社会に貢献したい気持ちが豊かに育っています。

2. 道具として使いこなす「高い ICT スキル」

プレゼン資料作成(92.9%)や情報収集・整理など、すべての ICT 項目で全国を大きく上回りました。単に調べるだけでなく、自分の考えをまとめて人に伝える「表現・発信型」の学習ツールとしてタブレットを日常的に活用できている成果です。

3. 自分たちで考え行動する「主体的な学び」

学習の振り返り(89.3%)や、学級会での話し合いを生かした解決(87.5%)など、自ら目標を立てて改善する習慣が定着しています。「自分たちの力で学校生活をよくしていこう」という自律的な姿勢が育まれています。

強みを伸ばし、自信につなげる 3 つのアプローチ

・探究・発表学習の充実: 地域課題の解決や ICT を活用したプレゼンなど、誰かの役に立つ成果を発信・共有する機会を増やしていきます。

・お互いのよさを認め合う活動: 友達同士で感謝や成果を伝え合う場を設け、自分のよさ(自己肯定感)をより実感できるように育みます。

・家庭との連携: 学校での成長や活躍を御家庭にもお伝えし、地域・家庭と一体となった教育を推進します。

《全国平均より肯定的な回答が下回っている項目》

（「できている」「どちらかといえば当てはまる」の合計割合）

質 問 項 目	本 校	全 国
相互承認（自己承認、他者への承認、他者からの承認）の感度に係る項目		
自分には、よいところがある。	78.6%	85.6%
いじめは、どんな理由がってもいけないことだと思う。	94.7%	96.2%
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談ができる。	67.8%	70.6%
家庭環境・地域貢献・家庭学習に係る項目		
朝食を毎朝食べている。	91.0%	93.1%

【下回っている項目について…結果から・改善の方向】

1. 「人のために頑張る」反面、控えめな自己肯定感

「自分には、よいところがある(78.6% / 全国 85.6%)」と全国をやや下回りました。本校の子どもたちは「人の役に立ちたい」という利他意識が非常に高い一方で、自分自身の評価に対しては厳しく、控えめに捉えてしまう傾向が見られます。

2. 相談することへのためらい・基本的生活習慣

「先生や大人にいつでも相談できる(67.8%)」や「朝食を毎朝食べている(91.0%)」が全国平均をわずかに下回りました。「自分で解決しなければ」と抱え込んでしまう真面目さや、生活リズムの乱れが不安に影響している可能性があります。

学校での取り組みとご家庭でのサポート

～自尊感情を育み、安心感を届ける 3 つのポイント～

- ・「できたこと・人の役に立ったこと」の言葉かけ：日常の小さな貢献や頑張りを積極的に褒め、「あなたのおかげで助かったよ」と認める機会を増やします。
- ・「頼ってもいいんだ」という安心感：困った時には「いつでも大人を頼ってよい」ことを伝え、学校と家庭が連携して SOS を受け止められる体制を整えます。
- ・基本的生活習慣の定着：朝食をしっかり食べて登校するなど、心と体のエネルギーを満たす規則正しい生活リズムづくりに引き続き御協力をお願いいたします。